



## 2020年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年7月13日

上場会社名 フェスタリアホールディングス株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 2736 URL <https://www.festaria.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 貞松 隆弥  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 姉川 清司 (TEL) 03-5768-9969  
 四半期報告書提出予定日 2020年7月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2020年8月期第3四半期の連結業績(2019年9月1日~2020年5月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年8月期第3四半期	6,207	△13.6	△450	—	△487	—	△374	—
2019年8月期第3四半期	7,182	1.6	△61	—	△92	—	△78	—

(注) 包括利益 2020年8月期第3四半期 △366百万円(—%) 2019年8月期第3四半期 △84百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年8月期第3四半期	△320.03	—
2019年8月期第3四半期	△67.17	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年8月期第3四半期	8,734	1,291	14.3
2019年8月期	8,693	1,695	19.0

(参考) 自己資本 2020年8月期第3四半期 1,245百万円 2019年8月期 1,654百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年8月期	—	0.00	—	20.00	20.00
2020年8月期	—	0.00	—	—	—
2020年8月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

## 3. 2020年8月期の連結業績予想(2019年9月1日~2020年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,200	△17.7	△500	—	△550	—	△520	—	△445.90

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年8月期3Q	1,192,100株	2019年8月期	1,190,800株
② 期末自己株式数	2020年8月期3Q	25,925株	2019年8月期	13,884株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年8月期3Q	1,171,655株	2019年8月期3Q	1,173,552株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（2019年9月1日～2020年5月31日）におけるわが国経済は、相次ぐ自然災害の発生や消費税率の引き上げにより消費マインドが悪化するなど、個人消費は停滞気味に推移しました。さらに、米中貿易摩擦の長期化や英国のEU離脱問題など世界経済の減速懸念が燦るなか、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けたことにより、国内外における社会的・経済的活動が大幅に制限され、景気は急速に悪化しました。

当社グループが属する宝飾業界におきましても、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が著しく、外出自粛要請や商業施設の休業・営業時間短縮等が続くなか、2020年4月の緊急事態宣言の発出・対象地域拡大の影響もあり、営業活動が全国的に大きく抑制されるなど、大変厳しい事業環境となりました。

このような環境のもと、当社グループは、2020年に創業100周年を迎えるにあたり、次の100年への歩みに繋げる節目の年と位置付け、持続的成長に向けた経営基盤の強化に注力しました。

その中核となる取り組みとして、成長ドライバーである主力商品“Wish upon a star”の更なる競争優位性を確立すべく、2019年10月にダイヤモンド研究所を設立し、高品質でさらに付加価値の高い商品の開発・提供に向けた取り組みを進めました。また、2020年2月には、デジタルとリアルを融合したジュエリーブランド「Diaplus produced by festaria（ディアプリュス（※））」をオープンするなど、お客様の多様なニーズに即した対応を進めておりました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、特に2020年3月下旬以降は、営業活動の自粛を余儀なくされ、財務状況の深刻化が懸念されたことから、財務安定性や手元流動性を確保するため、仕入・投資の抑制に加え、不要不急のコスト削減に取り組みました。さらに、地金売却による在庫処分を検討や金融機関からの借入金増額を図るなど、運転資金の確保を進めました。また、政府の支援策を最大限活用しながら、経営基盤の源泉となる人材確保に向けた雇用の維持に努めました。

国内小売事業については、2020年3月下旬から段階的に臨時休業や営業時間短縮を実施し、2020年4月の緊急事態宣言の発出から解除された2020年5月下旬にかけては、ほぼ全店で休業を実施しました。さらに、予定していた展示会や催事等も相次いで中止となるなど、営業活動が大きく制限されたため、当第3四半期連結会計期間（2020年3月1日～2020年5月31日）の売上高は前年同期比49.0%減と大幅に減少しました。2020年6月以降は、一部の店舗で営業時間の短縮を実施しているものの、全店舗で営業を再開し、実店舗における売上高はブライダル関連を中心に急速に回復しております。その他、店舗の感染対策としては、お客様、お取引様、従業員及びそのご家族の安全・健康確保を最優先に、ソーシャルディスタンスの確保、レジ前のビニールシートの設置、消毒液や手袋、マスクなどの配備などを義務付け、徹底した衛生管理を行っております。

海外事業については、小売部門である台湾子会社の台湾貞松股份有限公司（日本名：台湾貞松株）では、台湾政府の新型コロナウイルス感染症防止対策が奏功し、経済活動が概ね維持されていることから、売上への影響は限定的となりました。

生産部門であるベトナム子会社D&Q JEWELLERY Co.,Ltd（日本名：ディーアンドキュー ジュエリー）では、急激な需要の落ち込みや仕入の抑制によりグループ全体の発注調整に伴い、生産工場も臨時休業等を実施したため、稼働率が著しく低下しました。なお、新型コロナウイルス感染症拡大によるサプライチェーンへの影響は現時点では軽微であります。

以上のような厳しい環境下で諸施策に取り組んだものの、新型コロナウイルス感染症拡大が当社グループの業績に与える影響は大きく、当第3四半期連結累計期間の連結業績は、売上高6,207百万円（前年同四半期比13.6%減）、営業損失450百万円（前年同四半期営業損失61百万円）、経常損失487百万円（前年同四半期経常損失92百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失374百万円（前年同四半期純損失78百万円）となりました。

。

（※）ディアプリュスは、「Diamond（ダイヤモンド）+Plus（加える）」の造語であり、上質なダイヤモンドにプラスするパーソナルな満足感の提供をコンセプトに創設しました。具体的には、100種類以上のデザインと厳選された高品質のダイヤモンドルースを選んでバーチャルフィッティングできるスマートフォン専用アプリを使用し、ファッションからブライダルに至るまで品質にこだわったパーソナルオーダーが可能となります。店頭はもちろん、ご自宅でもお手元をご覧くださいながら、ジュエリーのご試着イメージをお楽しみいただき、お客さまご自身のセレクトでジュエリーを作り出す喜びを堪能できるサービスです。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は8,734百万円となり、前連結会計年度末に比べ41百万円増加いたしました。その要因は主に、受取手形及び売掛金が788百万円減少したものの、現金及び預金が638百万円、原材料及び貯蔵品が95百万円、繰延税金資産が158百万円増加したものであります。

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は7,443百万円となり、前連結会計年度末に比べ445百万円増加いたしました。その要因は主に、支払手形及び買掛金が386百万円、未払金及び未払費用が220百万円、前受金が99百万円減少したものの、借入金の総額が1,236百万円増加したものであります。

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は1,291百万円となり、前連結会計年度末に比べ404百万円減少いたしました。その要因は主に、利益剰余金が398百万円減少したものであります。

この結果、自己資本比率は14.3%となり、前連結会計年度末に比べ4.7ポイント減少いたしました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年8月期の連結業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症の拡大が当社グループに与える影響について、合理的に算定することが困難なことから未定としておりましたが、経済活動再開の動きが見えてまいりましたので、現時点において入手可能な情報をもとに算定いたしました。

詳細につきましては、本日(2020年7月13日)公表いたしました「2020年8月期 連結業績予想、期末配当予想の修正および役員報酬の一部減額等に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	698,717	1,337,713
受取手形及び売掛金	1,059,193	270,645
商品及び製品	3,595,853	3,615,128
原材料及び貯蔵品	992,235	1,088,024
その他	175,531	221,814
貸倒引当金	△319	△1,082
流動資産合計	6,521,212	6,532,243
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,037,633	1,090,051
減価償却累計額	△500,430	△563,647
減損損失累計額	△19,900	△19,900
建物及び構築物 (純額)	517,303	506,503
機械装置及び運搬具	98,435	99,489
減価償却累計額	△71,113	△75,048
機械装置及び運搬具 (純額)	27,321	24,441
工具、器具及び備品	325,798	315,070
減価償却累計額	△240,126	△251,434
工具、器具及び備品 (純額)	85,671	63,635
土地	90,478	90,478
リース資産	523,757	535,811
減価償却累計額	△297,664	△343,008
リース資産 (純額)	226,092	192,802
有形固定資産合計	946,867	877,860
無形固定資産		
投資その他の資産	168,516	143,518
投資有価証券	81,965	81,730
繰延税金資産	180,326	339,081
差入保証金	635,251	609,710
その他	165,320	157,015
貸倒引当金	△6,298	△6,630
投資その他の資産合計	1,056,566	1,180,908
固定資産合計	2,171,950	2,202,287
資産合計	8,693,163	8,734,531

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年5月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	727,309	340,314
短期借入金	2,513,640	2,520,000
1年内返済予定の長期借入金	638,932	787,125
未払金及び未払費用	627,921	407,477
未払法人税等	—	14,932
前受金	274,224	174,261
リース債務	112,472	103,956
賞与引当金	32,279	33,442
その他	101,405	62,447
流動負債合計	5,028,186	4,443,957
固定負債		
長期借入金	1,273,531	2,355,737
リース債務	209,504	156,619
退職給付に係る負債	258,238	277,782
その他	227,735	209,055
固定負債合計	1,969,009	2,999,194
負債合計	6,997,195	7,443,151
純資産の部		
株主資本		
資本金	801,484	802,134
資本剰余金	608,793	609,443
利益剰余金	295,574	△102,933
自己株式	△13,620	△34,106
株主資本合計	1,692,231	1,274,537
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	89	△73
為替換算調整勘定	△37,075	△29,155
退職給付に係る調整累計額	△588	△147
その他の包括利益累計額合計	△37,574	△29,376
新株予約権	41,310	46,218
純資産合計	1,695,967	1,291,379
負債純資産合計	8,693,163	8,734,531

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年9月1日 至2019年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年9月1日 至2020年5月31日)
売上高	7,182,882	6,207,426
売上原価	2,640,810	2,425,916
売上総利益	4,542,071	3,781,509
販売費及び一般管理費	4,603,595	4,232,107
営業損失(△)	△61,524	△450,597
営業外収益		
受取利息	779	872
受取家賃	900	—
為替差益	8,005	21,776
その他	569	4,936
営業外収益合計	10,254	27,585
営業外費用		
支払利息	32,439	37,323
支払手数料	4,341	21,000
その他	4,052	6,106
営業外費用合計	40,833	64,430
経常損失(△)	△92,103	△487,442
特別利益		
補助金収入	—	117,042
受取補償金	—	10,765
特別利益合計	—	127,807
特別損失		
臨時休業等による損失	—	123,716
店舗閉鎖損失	4,153	—
固定資産除却損	9,788	40,403
特別損失合計	13,942	164,120
税金等調整前四半期純損失(△)	△106,046	△523,755
法人税、住民税及び事業税	13,312	10,131
法人税等調整額	△40,535	△158,916
法人税等合計	△27,222	△148,785
四半期純損失(△)	△78,823	△374,970
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△78,823	△374,970

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年9月1日 至 2019年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年9月1日 至 2020年5月31日)
四半期純損失(△)	△78,823	△374,970
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△347	△163
為替換算調整勘定	△7,915	7,920
退職給付に係る調整額	2,745	441
その他の包括利益合計	△5,517	8,198
四半期包括利益	△84,341	△366,772
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△84,341	△366,772
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

連結納税制度の適用

当社及び一部の連結子会社は、当連結会計年度から連結納税制度を適用しております。

会計上の見積り

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、当第3四半期会計期間において、当社店舗の営業時間の短縮及び臨時休業等を行っていましたが、5月7日より順次営業を再開し、5月25日に全都道府県で緊急事態宣言が解除されたことに伴い、6月4日には全店舗の営業を再開しております。当社においては、当第3四半期会計期間末時点で入手可能な情報に基づき、業績は6月以降徐々に回復し、翌連結会計年度以降については、当該感染症が拡大する前の水準に概ね回復していくものと仮定し、会計上の見積り（固定資産の減損や繰延税金資産の回収可能性等）に反映しております。